

地域社会との緊密な連携を築こう

～ 地域とともにある学校 ～

岡崎市立北野小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は昭和60年に開校し、令和7年度には創立40周年式典を終えた。岡崎市の北西部に位置し、東は矢作川、西は安城市、北は豊田市に囲まれた地域に所在する。学区は北から西にかけて広がる台地であり、豊かな水田と、学区の約3分の1を占める工場地帯が地域の特色を形づくっている。児童数は513名であり、令和7年度よりコミュニティ・スクールとして、地域・家庭・学校が連携し、子供たちの健やかな成長とよりよい学校づくりに取り組んでいる。

2 研究のねらい

現代の子供たちは、生活や学習、遊びにおいて多様な選択肢の中から自ら選び取る力が求められる時代にある。私たち大人は、その成長過程に寄り添い、適切に支援することが重要である。北野小学校ではコミュニティ・スクールの導入により、学校・家庭・地域が連携し、児童の健全な育成に取り組んでいる。本研究は、P T A活動を通じた協働の在り方を探るものである。

3 研究の仮説

P T A活動を通じて多様な人々と関わる機会を増やせば、子供たちの社会的な視野が広がり、地域全体でその成長を支える土壌が育まれ、こうした関係性が子供たちの未来の選択肢を豊かにするであろう。結果として、子供たちはより柔軟で多様な価値観を持ち、自らの可能性を広げていくことが期待されるであろう。

4 研究の方法

P T A会員が学校行事や地域団体とのイベントに参加し、子供・保護者・地域住民との交流を通じて得られる気づきや意見を記録・整理する。活動後には振り返りを行い、地域と協働することで子供たちの成長にどのような影響があるかを考察していく。

5 研究の実践

(1) 従来の実践を通じた地域連携の深化

ア 北野ファミリーによる「夏だ！授業参観にかき氷を食べるぞー！！」への参加

本校のおやじの会「北野ファミリー」は、昨年に続き授業参観に合わせて、暑さの中で頑張る子供たちにかき氷をふるまう活動を実施した。今年は学区消防団、女性自主防災クラブ、子供食堂、P T A役員の協力も得て、地域一体となった取組となった。子供たちの笑顔を中心に、多くの大人が協力し合う姿から、地域と学校が連携する意義を改めて実感する機会となった。



イ スポーツ振興会主催の各種競技への参加

ソフトミニバレーやバドミントン、グラウンドゴルフ、歩け歩け大会など多様な種目を通じて、地域の方々との交流を深めている。令和5年度から導入されたモルックは、年齢を問わず楽しめる競技として注目されている。グラウンドゴルフでは、子供たちが地域の高齢者から技術を教わる姿も見られ、世代を超えたつながりが生まれている。スポーツを通じた笑顔の交流は、地域の絆を育む貴重な機会となっている。

ウ 社会教育委員会主催の「わっしょい北野学区夏祭り」への参加

夏の恒例行事として、盆踊りや仮装大会、くじ引き大会などが開催され、地域の皆で盛り上がる風物詩となっている。子供から高齢者まで幅広い世代が参加し、笑顔と交流があふれるひとときとなった。準備や運営には多くの地域の方々が関わり、地域一体となって子供たちの思い出づくりを支えている。

(2) 現状を起点とした新たな協働のかたちの創出

ア 「北野小交通安全の日」ののぼり旗作成

本校では毎月25日を「北野小交通安全の日」と定め、子供の交通安全意識の向上に取り組んでいる。今年度は新たな実践として、子供からデザインを募集してのぼり旗を作成した。PTAにも活動への参加を呼びかけ、多くの会員が自宅にのぼり旗を設置したり、のぼり旗を持って登下校に同行したりするなど、見守り隊と連携して子供たちの安全を支援した。地域・家庭・学校が一体となって交通安全を啓発する協働の取組となっている。

イ 交通安全のための「止まれ」シール設置

コミュニティ・スクールの話し合いで、交通安全への意識づけとして「止まれ」シールの活用が有効との意見が出された。総代会でも話題となり、地域の方々や子供会と協力して学区内の危険箇所を話し合い、今年度新たに設置した。愛らしいカエルのシールに子供たちも関心をもち、一時停止して安全に横断する姿が見られた。地域と学校が連携した安全啓発の取組となった。

6 研究の考察

本研究を通じて、PTA活動が地域との協働を深め、子供たちの健やかな成長を支える重要な役割を果たしていることが明らかとなった。従来の行事参加に加え、のぼり旗や「止まれ」シールの作成など新たな取組では、地域・家庭・学校が目的を共有し、子供たちの安全や意識づけに成果を生んだ。多様な世代が関わることで、子供たちの選択力や社会性を育む環境づくりが進んでいる。こうした協働の積み重ねが、地域に根ざした教育活動の充実にもつながっている。

7 成果と今後の課題

本研究を通して、PTA活動が地域とのつながりを深め、子供たちの安全意識や社会性の育成に役立っていることがわかった。のぼり旗や「止まれ」シールの取組では、子供たち自身が関心をもち、地域の方々と協力する姿が見られたことも大きな成果である。一方で、活動の継続や参加者の広がり、情報共有の工夫の必要性など、今後に向けた課題もある。今後は、より多くの人々が気軽に関われる仕組みづくりや、協働の意義を伝える場づくりを進めていきたい。